

MARUSHO NEWS Vol.83

丸 庄 発 、 選 り す ぐ り の 情 報 を お 届 け し ま す 。

誕生20年のロングセラー 丸 庄 ノート が 選 ば れ る 理 由



初めての訪問や年始のご挨拶でお配りしている丸庄ノート。

2004年の誕生以来、改良を重ねながら今年で20周年を迎えます。

20周年という節目に、丸庄ノート（ECOオリジナルノート）の特長をご紹介します。

丸庄ノートとは……

付加価値の高い紙リングノート

紙リングは特殊板紙を、塩素系溶剤を含まない環境対応型接着剤で2枚合紙したものです。金属やプラスチック製リング使用の製品と違い、製品本体と分別することなく、そのまま古紙に再利用できます。SDGsへの関心が高い企業や業種の方へおすすめです。

リングの色は「白」と「黒」の2種類からお選びいただけます。



省スペースでも使いやすい

1枚1枚の用紙をリングで閉じているため、すっきりと折り返してコンパクトに使えます。セミナーなどで資料を広げて手狭になりやすい卓上でも、安定して記入できます。



バッグの中でも邪魔にならないA5サイズ

しっかり書き留めたいときや長い期間使用したいとき、そして持ち運びにも適したサイズです。もちろん、オリジナルデザインでの作成も可能です。



ノートをご制作いただいたお客様の声



展示会で来場者にノベルティとして配布しています。実用性が高いアイテムなので、喜ばれることが多いです。展示会はサンプルや資料などで荷物が多くなりがちですが、ノートならかさ張らないところも人気の理由だと思います。



ミシン目が入っているところが特に好評でした。オリジナルノートは他のノベルティと比べて、印刷可能なスペースが広く自由にデザインできるので、お客様に企業イメージを伝えやすく、広告効果も高いと思います。

オススメ

ECOオリジナルノート

ミシン目で切り取りも簡単。実用性が高く相手の手元に残る販促ツールです。

表紙と裏表紙は御社オリジナルデザイン（完全データ入稿）に対応。
中面は40枚（80ページ）、3種類のデザインからお選びいただけます。



A5 1,000部 ￥300 / 1冊

サイズ: W148×H210mm
仕様: 表紙ボンアイボリー 15.5kg
本文 (80P) 上質 70kg
最少ロット: 1,000部
最短納期: 約2週間

中面は3種類からお選びいただけます。



※ほぼ実物大です

Facebook・Instagramでは、丸庄情報・千住、足立区の情報をゆるく楽しくご紹介しています。フォローよろしくお願ひします！
皆さんの いいね！ お待ちしております。





印刷の豆知識 ～オフセット印刷とオンデマンド印刷～

(MARUSHO NEWS アーカイブ)

丸庄の「相談できる印刷通販 MaruIRO (まるイロ)」。おかげさまで今年の5月に10周年という大きな節目を迎えることができました。

印刷通販、ネット印刷サービスのほとんどが、品質を重視し部数の多いものは「オフセット印刷」、少部数・納期を急ぐなら「オンデマンド印刷」と使い分けられています。

オフセット印刷とは



「版」を使って転写を利用して印刷をします。対応枚数は、1000枚～など部数の多いものとなります。 ※各社、部数には違いがあります。

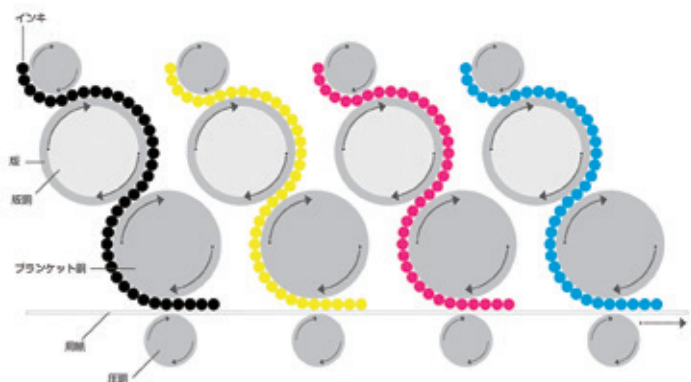
■オフセット印刷の特徴

- ・細かい文字や線も鮮明で色むらもなく印刷できる安定性がある。
- ・色の表現性が高い。
- ・版などのコストがかかるため、少部数の印刷には向いていない。

■オフセット印刷の仕組み

インクが、まず①金属でできた版→②ゴムをまきつけたローラー（ブランケット銅）→③用紙という順番で印刷されます。

版から直接、用紙に印刷するのではなく、一度ブランケットに転写してから（オフ）用紙に印刷する（セット）ためオフセット印刷と呼ばれています。



上の図のようにオフセット印刷では、印刷するデータをプロセスカラーと呼ばれる4色（C：シアン、M：マゼンタ、Y：イエロー、K：キーカラー／黒）に分けてアルミ素材の版を作った後、それぞれの版にインクをつけて、そのインクをブランケットで写し取り、そこから用紙に転写させて印刷することでフルカラー印刷を行っています。

オンデマンド印刷とは



「版」を使わず、粉状のインクで印刷します。対応枚数は、1枚からの少部数にも対応可能。

オンデマンド印刷は、特定の印刷機をさすものではなく、「必要なとき、必要なものができる印刷」のことを表しています。版を必要とせず、すぐに印刷し上げることができる印刷で「レーザー式」と「インクジェット式」の主に2種類の印刷機があります。

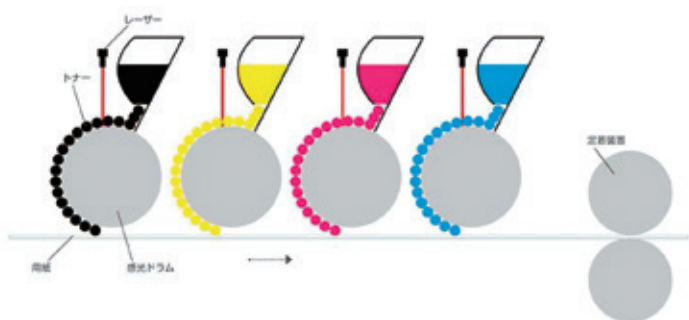
■オンデマンド印刷の特徴

- ・A6～A3サイズの少ない部数の印刷に向いている。
- ・インクを乾かす時間がかからないため、短時間で仕上げるができる。
- ・機種によっては、湿度や気温に影響されやすく、オフセットに比べて色の表現にムラが生じる場合もあるため、大量部数の印刷物には向いていない。

■オンデマンド印刷の仕組み

レーザー式プリンターの印刷の仕組みに必要なものは感光ドラム、レーザー、粉状トナーと用紙です。感光ドラムという磁石と砂鉄のようなトナーインクにより、版のない状態で印刷することができます。

磁石（感光ドラム）にレーザー光線が当てられることにより、磁石の表面が「一時的な版」ようになり、そこに粉状の砂鉄（トナーインク）がつき、そのあと用紙に転写されて印刷されます。



ビニール傘の歴史

(MARUSHO NEWS アーカイブ)

ビニール傘は元々幕府御用達の和傘問屋だったというホワイトローズ株式会社（東京都台東区）が昭和33年にその原型を完成させました。

昭和20年代、当時主流だった「綿傘」は、染色技術の未熟さゆえ、「色落ち」の苦情がたえませんでした。そこで、ホワイトローズ株式会社は、進駐軍が持ってきたビニールのテーブルクロスにヒントを得て、傘をまもるためにビニールの「傘カバー」を開発し発売。これが飛ぶように売れたそうです。これが、現在のビニール傘開発の発端です。

その後、時代は科学技術・新素材開発の昭和30年代を向かえ、合成樹脂繊維を代表する「ナイロン」の誕生により、雨傘の大量生産を望むマーケットの要素は一変します。この変化により、ビニール傘カバーの需要がなくなると、ホワイトローズ社は、いよいよカバーではなく、ビニール傘の開発に取り組んだそうです。

発売当初、ビニールを張った傘は当時の時代認識との差があったのか、一般的には、なかなか受け入れられませんでした。その後、1964年、東京オリンピック観戦のために来日したアメリカ人バイヤーに注目され、量産化がスタート、ニューヨークで販売されることに…。しかし、その後は、海外生産品との価格競争により、アメリカで売れなくなったため、日本国内にターゲットを絞り、上野や銀座界隈で売り出したことがきっかけで、全国に広まりました。

ちなみに、気象情報会社「ウェザーニューズ」が2022年、全国の9858人に行ったアンケートによると、「ビニール傘の所有率」は全国平均で1.6本で、トップは東京都で2.0本、一番少ないのは山形県の0.8本という結果になりました。

